

授業科目 評価学演習Ⅱ

【担当教員名】 押木 利英子、古沢 アドリアネ 明美 他		対象学年	2	対象学科	理学
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60（発達障害：20）
【概要・一般目標：GI0】 中枢神経系評価学Ⅰで修得した発達障害に対する理学療法評価の応用力を高め、理学療法の領域（発達障害：脳性麻痺児、ダウン症児など）を想定した検査測定評価の「思考」と「技術」を練り上げる。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 正常・異常運動発達を模倣する。 2. 姿勢反射・各種発達テスト・基本姿勢・動作の観察と分析などを行う 3. 必要な情報や検査測定項目を列挙し、その実施計画を立て、それを実施するまでの評価の流れを模倣する。 4. 学生間で学びあいながら自主的、計画的に共同作業に取り組む。 5. 臨床で行う記録と症例研究の考察を模倣する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	正常・異常運動発達（0～6m）			1	演習（グループ）、担当：押木 利英子
2	正常・異常運動発達（7～12m）			1	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
3	粗大運動の発達			1	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
4	姿勢反射テストの手技と実際			2	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
5	各種発達テストの手技と実際			2	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
6	脳性まひ児の運動発達と評価（1）			2	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
7	脳性まひ児の運動発達と評価（2）			2	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
8	重度重複障害児の運動発達と評価			3～5	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
9	低筋緊張児の運動発達と評価			3～5	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
10	小児整形外科疾患の病態と評価			3～5	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		理学療法評価学 第2版	松澤正	金原出版	2004・6,510円
		小児理学療法テキスト		南江堂	2010
参考書		ベッドサイド神経の診かた第16版	田崎義昭 他	南山堂	2004・7,560円
その他の資料		必要に応じてプリント配布			
【評価方法】 出席、小テスト、レポート、実技試験、その他			【履修上の留意点】 トレーニング・ウェア上下など動きやすい服装で参加する。 実技は繰り返し練習すること。		